第１２４回　経営協議会議事録

日　時　令和６年９月 30 日（月）14 時 00 分～16 時 00 分
場　所　和歌山大学南１号館（事務局棟）３階共通会議室
出席者　本山学長
島委員、清水委員、関委員、築野委員、前委員、松田委員、宮下委員、
矢倉委員
添田、野村、松本、岩田、山形　各理事
（福田監事、内川監事、足立副学長、田川学部長、金川学部長、大浦学部長、
南方副理事、小田企画課長、櫻井財務課長）
欠席者　なし

はじめに、９月１日付で監事に就任した福田監事及び内川監事より挨拶があった。
学長から、第１２２回（令和６年６月13日）及び第１２３回（メール審議）の議事録について確認があった。

議　題：
１．大学機関別認証評価の評価基準等に基づく自己点検・評価について
添田理事から、大学機関別認証評価の評価基準等に基づく自己点検・評価について、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。

（主な質疑や意見）
・大学機関別認証評価における外部評価報告書の位置付けはどうなっているのか。また、最終的な認証評価の結果はいつ判明するのか。
→外部評価報告書は、内部質保証の一環として公表されている。前回の機関別認証評価においては、訪問調査後、問題点について指摘を受けて作成した資料を11月に提出し、最終的な結果は翌年に確定した。

・「評価のための評価」にならないように、また、大学の負担を軽くするように言われているところであるが、外部の専門家からの指摘を共有していただき、運営に活かしてもらえればと思う。

・大学機関別認証評価において、和歌山大学は国際交流・地域社会との連携についての項目を選択しておらず、評価を実施しないということだが、中期目標・中期計画に関する自己点検・評価で外部評価を実施するのは、内部質保証の観点から、学外評価委員に確認してもらうためか。

→お見込みのとおり。

・第４期中期目標・中期計画において、「共同研究・受託研究等」の550件以上の実施を評価指標としているが、その数値を設定した根拠や妥当性について判断したい。「国際交流」や「地域社会」との連携についても、伸ばさなければならない大切な分野であるが、評価指標の数値設定にあたり、どのようなことを検討したか、また、これらの件数の中身についてわかる資料はあるか。

→第４期中期目標・中期計画期間中の共同研究・受託研究等の指標数値について、第３期中期目標・中期計画期間の実績から10％ほど上乗せした結果、そのような目標値となったと考える。「研究活動（共同研究・受託研究等）」、「国際交流」及び「地域社会との連携」の数値設定の詳細並びにそれらの件数の内訳について、後日共有させていただく。

なお、共同研究等に関しては、企業や地方自治体を実際に訪問し、研究実績について地道にアピールを行っている。担当理事らを中心として、どういった分野の共同研究が中断されたのか、あるいは新規契約が締結されたかについて、その理由と併せて調査を行っているところである。また、教員と地元企業等をつなぐ工夫も行っている。国際交流に関しても、短期留学生受入の制度の整備し、学長自ら東南アジア等を訪問して協定を締結し短期交流プログラムの紹介を行うなど、目標に到達できるよう工夫し尽力しているところである。

・和歌山大学は、学生の派遣や交流にあたり、欧米ではなく、これから発展していく地域を主な対象地としていると考えるが、学生が訪問したい国や企業についてアンケートを行っているか。また、海外において市場調査を行えば学生自身が卒業した際の活躍がイメージしやすくなると考える。

→学生の海外派遣ニーズについては調査を行っている。学生が海外のどのような企業に就職したいか、海外のどのような産業に関わりたいかといったことの調査はまだ進んでいないが、それらの調査を行い、結果を産業界に共有することを検討したい。

・認証評価にかけた労力対効果を高めるため、認証評価で判明した大学の課題点等について、全学の教員・学生に理解させることが大切と思う。

・教学の活動において、学生が活発に学ぶための工夫を行う必要があるが、卒業時に必要な能力が備わっているか、また、育成した人材が、世の中でどのように活躍しているのか追跡し、把握する体制作りが必要である。

・研究推進について、戦略本部を設置し取り組むと聞いたが、大学全体として、研究の進め方についての方針は、どのように検討し共有しているのか。リソースが限られている中で和歌山大学は何をどのように進めていこうとしているのか、「見える化」が必要であると考える。

→研究推進戦略本部は、現在、未設置であるが、設置準備室において、大学のリソースの制限をふまえつつ、本学の科研費申請数・採択率を増加させる方法や、海外大学との共同研究の可能性を探っているところである。大学全体として、ロボット関係の研究を地域にどう役立てられるか検討するプロジェクトを進めているところである。

・第４期中期目標・中期計画の部分について、例えば、共同研究・受託研究等の550件以上という指標の数値については、着手件数であり、今後積み残しが生じる懸念がある。どれだけ成果が上がっているのか注視するべきである。地域社会との連携について、数値指標だけは見えているが、今後、地域と和歌山大学との関係がどうなっていくか見えない。国際交流においても、単に外国とのつながりを作るだけ、というようにしか見えない。和歌山大学がどうなっていくか、何を目指しているのか、期待に胸を膨らませるような情報があると、外部も応援したくなると考える。

→活動の進展の「見える化」について、第３期中期目標・中期計画期間中に比べると改善されてきていると考えるが、数値の目標達成のみならず、そこから何を行ったか具体的に記載するなど、記載上の工夫についても、引き続き進めていきたい。

・和歌山県と言えばみかんをはじめとした果樹である。果樹の収穫について、農家の負担減につながるシステムを大学と企業が協力して作ることができれば、わくわくするようなビジョンが描け、大学に多くの学生が志望するようになり、収益にもつながるのではないか。

→システム工学部において、物をつかむ研究を行っている研究者や、AIを使用し画像認識を行う研究を行っている研究者らがチームを組んで進めているところである。

・企業としては、国内外の様々な大学と共同研究を行っているが、人手不足により、本当に重要なものしか対応できないのが現状である。海外大学との共同研究では、時差やコストもかかるので、地元に近い大学と協力する方が、密になって取り組むことができるメリットがある。一方で、企業側は大学に

丸投げせず、本気で一緒になって取り組めるものに対応しなければならない。

２．国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告について（令和６年度公表分）

松本理事から、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告（令和６年度公表分）について、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。

（主な質疑や意見）

・報告書を読むだけで中身が理解できることが必要であり、URLを掲載するだけにならないようにすべきである一方、ガバナンス・コードに係る報告書を作成する過程で、記載している内容が真に機能しているのか、振り返る機会となるべく、URLからすぐに根拠を参照できることも大切である。これらについて、和歌山大学において適切に対応していると考える。

報　告：

１．令和５事業年度財務諸表の承認について

松本理事から、令和５事業年度財務諸表の承認について、資料に基づき説明があった。

２．令和７年度概算要求の状況について

松本理事から、令和７年度概算要求の状況について、資料に基づき説明があった。

その他：経営協議会全体を通し、委員から以下の意見があった。

・データサイエンティスト等を育成する社会インフォマティクス学環は、県との地域連携にとっても必要であると考える。今後の活動を期待している。

→優秀な学生が揃っており、現在、演習等で様々な地域で活動している。既に企業等から注目されている学生もおり、地域からのニーズがあると考える。

・学生が大学に何を求めているのか、また、将来を見据え大学で何を行いたい

と思っているかを、大学として把握し行動することが大切であると考えるが、現状どのように把握しているのか。

→学生からのニーズについては、様々な場面でアンケートや少人数での聞き取り等を行っている。学生自身の人生を考えてもらう機会とするため、キャリア教育についても今一度力を入れているところである。引き続き学生が希望することの実現に向けてアンテナ高く張っていきたい。

・キャリアを考えた教育というのは素晴らしいと考える。自分で起業したいといった学生や、地域への貢献をしたいという学生を支える取組も大切かと思う。

→アントレプレナーシップについて、大学の重点課題としているところであり、寄附講座等で多くの企業からも関わっていただいている。これからも発展させていきたい。

・文科省や財務省への予算獲得交渉の流れについて教えていただきたい。

→例えば、システム工学部定員増に係る支援事業にあたっては、担当理事・学部長・教員・事務職員等が総力を挙げて資料を作成し、それを基に文部科学省へ何度も説明を行った。

・予算獲得のため、多様なステークホルダーに協力してもらう必要があると思う。情熱をもって取り組んでほしい。

以　　上